

仙台高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	保健体育Ⅲ
科目基礎情報						
科目番号	1010		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学系（広瀬キャンパス一般科目）		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）					
担当教員	兼村 裕介,東畑 陽介					
到達目標						
1．授業で扱われるトレーニング、器械運動、ソフトバレー、サッカー、バレーボールの各運動種目の基本技術を習得し、それらの運動を実践できる。 2．トレーニング、器械運動、ソフトバレー、サッカー、バレーボールの競技ルールを理解し、競技を楽しんで実施できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
活動点		全ての授業に参加し、積極的に活動をおこなう。	授業に参加し、積極的に活動を行う。	積極的な授業参加を行わない。		
意欲、態度点		授業のための準備、各種目の実施、諸注意等への配慮を自ら行うことができる。	授業のための準備、各種目の実施などを教員の指示によってできるようになる。	授業の準備、各種目の実施について、行うことができない。		
技能点		各種目の技能を正確に実施することができ、クラスメイトに適切なアドバイスができる。	各種目の技能を理解し実施することができる。	各種目の技能を理解できず、実施できない。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 3 技術者として社会的役割や責任を自覚して行動する姿勢の習得						
教育方法等						
概要	運動における競争や協同の経験を通して公正な態度を養う。自己の最善を尽くし、相互に協力して、個人や集団の目標実現に向かって努力する能力や態度を養う。					
授業の進め方・方法	スポーツの実践を中心に授業を進めていく。1．各種目の競技特性、歴史的背景、競技の楽しみ方などを説明 2．各種目のルールの理解および技術の習得トレーニング 3．各競技の実施 各種目ごとに以上の順番を基本として授業を行っていく。					
注意点	体育は身体活動による学習である。ほとんどのスポーツは他者と共通の空間と時間を共有することで成立する。したがって、授業では、十分に周囲の安全に留意しなければならない。また、授業に参加するにあたっては、運動着の着用が必須の条件である。運動着でない着衣（革靴やサンダルなどの履物も含む）による授業の参加は認めない。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	スポーツテスト（1）	新体力テストを実施する。 全ての実施種目の測定をする。		
		2週	スポーツテスト（2）	新体力テストを実施する。 全ての実施種目の測定をする。		
		3週	スポーツテスト（3）	新体力テストを実施する。 全ての実施種目の測定をする。		
		4週	トレーニング（1）	自らの身体能力に応じた達成目標を設定し、目標達成にむけて、各種目に取り組むことができる。		
		5週	トレーニング（2）	自らの身体能力に応じた達成目標を設定し、目標達成にむけて、各種目に取り組むことができる。		
		6週	トレーニング（3）	自らの身体能力に応じた達成目標を設定し、目標達成にむけて、各種目に取り組むことができる。		
		7週	器械運動（あおむけ跳び）（1）	あおむけ跳びの運動特性を理解し、安全に学習を行うことができる。		
		8週	器械運動（あおむけ跳び）（2）	斜めからの助走によるあおむけ跳びが実施できる。		
	2ndQ	9週	器械運動（あおむけ跳び）（3）	ビデオ撮影により自分のあおむけ跳びの分析ができる。		
		10週	器械運動（あおむけ跳び）（4）	あおむけ跳びを実施できるようになる。		
		11週	ソフトバレーボール ガイダンス	ソフトバレーボールの競技特性を理解し、説明することができる		
		12週	ソフトバレーボール（1）	ソフトバレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。		
		13週	ソフトバレーボール（2）	ソフトバレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。		
		14週	ソフトバレーボール（3）	ソフトバレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。		
		15週				
		16週	ソフトバレーボール（4）	ソフトバレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。		
後期	3rdQ	1週	サッカー ガイダンス	サッカーの競技特性を理解し、説明することができる		
		2週	サッカー 基礎的技術（1）	アンダーハンドパス、オーバーハンドパスができる。		
		3週	サッカー 基礎的技術（2）	サーブを正確に打つことができる。サーブレシーブからアタックまでの動きを理解し、実施できる。		
		4週	サッカー 基礎的技術（3）	ポジションを理解し、ポジショナルフォルトにならないようなサーブレシーブフォーメーションを考えることができる。		

		5週	サッカー ゲーム（１）	バレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。
		6週	サッカー ゲーム（２）	バレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。
		7週	サッカー ゲーム（３）	バレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。
		8週	バレーボール ガイダンス	バレーボールの競技特性を理解し、説明することができる
	4thQ	9週	バレーボール 基礎技術（１）	アンダーハンドパス、オーバーハンドパスができる。
		10週	バレーボール 基礎技術（２）	サーブを正確に打つことができる。サーブレシーブからアタックまでの動きを理解し、実施できる。
		11週	バレーボール 基礎技術（３）	ポジションを理解し、ポジショナルフォルトにならないようなサーブレシーブフォーメーションを考えることができる。
		12週	バレーボール ゲーム（１）	バレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。
		13週	バレーボール ゲーム（２）	バレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。
		14週	バレーボール ゲーム（３）	バレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。
		15週		
		16週	バレーボール ゲーム（４）	バレーボールのルールに従い、仲間と安全にゲームすることができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2	
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
			目標の実現に向けて計画ができる。	2	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
			日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	

評価割合

	活動点（授業参加）	意欲（取組）	態度	技能	合計
総合評価割合	40	20	20	20	100
分野横断的能力	40	20	20	20	100